

2014年10月30日

大阪産業大学附属高等学校

## 2013年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属高等学校  
学校関係者評価委員会

10月27日に学校関係者評価委員会（8名中6名の委員が出席、他に代理出席1名）を開き、会議冒頭にホームページに掲載している体育祭・文化祭の動画を視聴し、その後、学校が公表している学校教育自己評価に基づいて大阪産業大学附属高等学校の教育について議論しました。その概要を報告します。

体育祭・文化祭の動画を視聴した学校関係者評価委員から「生徒が生きいきとしている」「とても良い雰囲気である」との感想が出されました。「1年生の時は体育祭を少し嫌がっていたが、3年生になり体育祭を楽しみにするようになった」という話も紹介され、「特別教育活動を通じた人間教育を重視している」との評価がなされました。

### 1. 2013年度 学校教育自己評価について

授業アンケートの結果に関して「生徒が主体的に学習に取り組む」ことが大きな課題になっていることについて、「この問題を含め授業アンケートの結果を教員間で議論していくようにしては」との提案がなされました。

また、生活アンケートについても「この学校の生徒は、校則を守っている」という項目への回答状況を生徒へフィードバックするようにして、アンケート結果を活かしていくことが提起されました。遅刻や校則を守っていないことへの指導に当たっては、注意するだけでなく違反する理由を聞いてやるなど良く話をすることが大切であるとの意見も出されました。

### 2. 学校教育への提言

#### A. 保護者から

生徒が挨拶をよくしていることに関して「学校に来ると生徒が次々と挨拶してくれて、挨拶を返すのが追いつかないぐらいだ」との表現で評価を受けました。

本校の大きな課題となっている「主体的に学習に取り組む」ことに関して、大学へ進学した場合は特に必要なことになると、生徒の将来の進路との関係でも強調されました。

#### B. 近隣地域住民から

「シャツ出しを含めて服装の乱れがなくなっている。2000人近い生徒がいれば、時には宜しくないことも起きることがあるが、地域の評判は年々良くなっている」との評価を受けました。学校への注文を聞きましたが、強いて言わなければならないという程のことはないとのことでした。

#### C. 大阪産業大学の教員から

附属高校なのだから、受験勉強を重点にするということではなく、大学で学ぶことができる学力を身につけることはもちろん必要だが、人間力を高める教育をしてほしいとの要望が出されました。